

# 彩の歳時記

平成二十二年 一月

あらたまの年行き返り 春立たば まづ我が宿に 鶯は鳴け

大伴家持【718～785】

(年があらたまって春になったら、まずは私の庭で鶯よ、鳴いてくれ)

「あらたま」は「新たな間」あらたま 〓 「新しい時」「絶え間なく変わり行く歲月」

を想わせる歌語で年に掛かる枕詞。「玉」と「魂」は同根の言葉で、

荒玉 〓 「磨かれていない掘り出したままの玉」の意もあり、未完成で真価が発揮されて  
いない人の意味もあります。古く正月は新月で、魂が甦ると考えられ「新魂の月」とも

あらたまの 春のマスクや 楽屋入 久保田万太郎【1889～1963】

## 一月の異称

睦月 睦族一同集って睦み合い、宴をする「睦び月」



## 一月の暦

一日 元旦 「新しい希望と決意とを持って新しい年の始めを祝う日」とする国民の祝日。1948(昭和23)

年までは「新年」という祝日で、四大節(新年・紀元節・天長節・明治節)の一つ。

初詣

氏神様やその年の恵方「何事においても良いとされる方角で今年は西南西」の社寺にお

参りする。昔は大晦日の夜にお参りして家に戻り、元日に再び参詣する人が大半だった。

二日 皇室一般参賀 10時10分・11時・11時50分・13時半、14時20分の五回行われる。因みに、2008年度は過去最高の2万2655人が参賀した。

二日～三日 第八十六回箱根駅伝 正式名は「東京箱根間往復大学駅伝競走」 正月の風物詩として人気。

五日 小寒(しょうかん)【二十四節気】寒の入り。大寒にかけて、だんだんと寒さが厳しくなる。

つむぎの日

昭和五十三年に本場奄美大島紬の振興のため、奄美市の全市民がこぞって

本場奄美大島紬を着用し、その良さを再認識することを目的に制定。



六日 消防出初式 一六五九年一月四日に定火消(江戸の旗本率いる火消で、他に奉書火消・大名火消

町火消がある)が上野東照宮前で一年の働きを誓ったのが始まり。

七日 七草(ななくさ) 七草粥は平安時代から始められ、江戸時代より一般に定着。



八日 正月事納 正月の各種行事・飾りを終える。

十一日 成人の日 (国民の祝日) かつて元服の儀が小正月(十五日)に行われていたので十五日であった

がハッピーマンデー制度導入に伴い、2000年から一月第二曜日に。

鏡開き 鏡餅を下ろして汁粉や雑煮にして食べ、年神の霊力を分け与えていただく。

十五日 歌会始 今年の御題は「光」。江戸時代は、ほぼ毎年催され、明治維新後も、明治二年一月に明治

天皇即位後、最初の会が開かれてから、今日まで改革をしながら、続けられている。

十七日 阪神淡路大震災記念日 1995年のこの日M7.2の地震が発生。死者約6300人、約30万人が被

災。得た教訓を忘れないため神戸市他で式典が行われている。

二十日 大寒(たいかん)【二十四節気】二十四節気は節分に終わり、立春が始まるので大寒がしめくり。

## 一月の歌 ぞうさん 詞 まどみちお

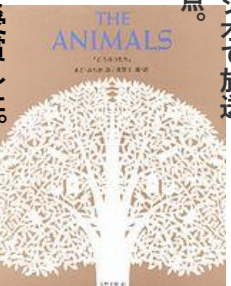
1948年に書かれた詞に1953年、團伊玖磨が曲をつけてNHKラジオで放送。

他と異なる自分を肯定し、誇りとする詞は詩人「まどみちお」の原点。

生誕地、山口県周南市の徳山動物園には「ぞうさん」の歌碑がある。

まどみちお1909年11月16日生まれで、百歳で現在も活動。

絵本「ぞうさんたち」THE ANIMALSは1992年に安野光雅の絵と  
美智子皇后の撰・英訳で日本・アメリカで同時出版され、児童文学の



ノーベル賞と呼ばれる国際アンデルセン賞作家賞を、日本人で初めて受賞した。

「ぞうさんゆっぴん」「ふしぎなポケット」などおおらかでユーモラス童謡も親しまれている。

ぞうさんぞうさん  
おはながながいのね  
ぞうま  
かあさんもながいのよ  
ぞうさんぞうさん  
だあれが すきな  
あのお  
かあさんがすきなよ